

氏名	土橋西紀
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4365 号
学位授与の日付	平成 23 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Environmental Factors and Seasonal Influenza Onset in Okayama City, Japan: Case-Crossover Study (岡山市における環境要因と季節性インフルエンザの発症： ケースクロスオーバー研究)
論文審査委員	教授 森島 恒雄 教授 山田 雅夫 准教授 池田 正徳

学位論文内容の要旨

インフルエンザウイルス感染症は公衆衛生上、大きな問題であるが、インフルエンザシーズン内に環境要因が季節性インフルエンザの発症にどのように影響を及ぼしているかは未だ解明されていない。そこで case-crossover study を用いて環境要因とインフルエンザ発症の関連を季節内(2006-07 年冬季)に限定して定量的に検証した。対象は岡山市内の小児科医院を受診し、インフルエンザと診断された患者(422 名)を対象とした。time-stratified design と symmetric bidirectional design により reference となる日を決め、発症日(lag0)から発症 10 日前(lag10)の平均気温と平均相対湿度が発症に与える影響を日ごとに推定した。結果、低気温、特に潜伏期間以前の低気温とインフルエンザ発症との関連が示唆された。相対湿度とインフルエンザ発症に明らかな関連は認められなかった。

論文審査結果の要旨

インフルエンザが何故日本では冬季に流行するのか、また近年何故沖縄では夏季が流行のピークを示しているのか、不明な点が多い。本研究は、インフルエンザ流行における気候の影響について case-crossover study を用いて、環境要因とインフルエンザの発症について調べたものである。2006/2007 インフルエンザシーズンの岡山市内の小児科医院を定点として、インフルエンザと診断された患者を対象として、time-stratified design と symmetric bidirectional design により、平均気温と平均相対湿度が発症に与える影響について検討し、低気温、とくに潜伏期より前の低気温が発症に関与することが示された。

このように重要な知見が得られ、価値ある業績である。今後さらにウイルスの亜型別の検討、年齢を加味した検討などが行われることを期待したい。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。